H29 社会を明るくする運動作文コンクール「鹿児島県更正保護女性連盟会長賞」

青パトのじっじ

志布志市立有明中学校　一年　脇田　将聖

「今度からじっじも週二回、朝立って、みんなの様子を見ることにする。」

ある日突然、家族で夕食をとっているとき、祖父が宣言した。

祖父は、青パトロールをしている。

「青パトを引き受けることになった。」

と、祖父が夕食のときに話をしたのは、五年前だった。僕はそのとき、ふーんと他人事のように聞いていた。それから祖父は、交通安全の会に出たり、見回りをしたりするようになった。しかし僕は、祖父がどんなことをしているのか、それがどんな大切な役なのか、自分からくわしく知ろうとはしなかった。

青パトロール、略して青パト。僕は青パトについて調べてみることにした。青色回転灯を装備した自動車で自主パトロールを行うことだ。この青色防犯パトロールは、人目につきやすく、目立つので、地域全体の自主防犯意識を高めることができる。また、青色防犯パトロールを通して、地域との絆が深まり、ともに問題や情報を共有することができる。つまり、青パトは安全安心な町づくりに役立っているのだ。

祖父のしているボランティアは、とてもやりがいのある活動だと、僕は改めて理解した。地域を見回るだけでも十分、役に立っているのに、誰かに「朝の交通安全指導をしてください。」とお願いされたわけでもないのに、祖父は「週二回、朝、道路に立つ」と自分で決めた。

宣言してから、週二回（通勤する人や通学する生徒にとって始まりの月曜日と最終日の金曜日の朝）、約一時間、家の近くの道路に立って、祖父は交通安全指導を始めた。

「おはよう。」

安全確認をしながら、横断する子どもたちに声をかける。

「今、何分だよ。気をつけて、いってらっしゃい。」

「今日頑張れば、明日は休みだよ。」

子どもたちの表情を見ながら、一人一人にあった声かけをする。

僕は、朝、祖父の姿を見ると、なぜかほっとする。なぜなら、祖父が、地域の安全を守っているからだ。

祖父が

「おはよう」

と声をかける。僕は友達と一緒に

「おはよぅございます。」

とあいさつを返す。一日の始まりの朝、祖父の声が、僕たちの背中を優しく押してくれる。晴れた朝も、雨の朝も、寒い冬も、暑い夏も、祖父は通る人たちを見守る。

祖父が家の前に立ってから、家の近くで事故は起きていない。これは祖父のおかげだと、僕は誇らしく思う。

「じっじ、ありがとう。じっじのおかげで、我が家はもちろん、周りの人たちも安全でいられるよ。」

いつか僕は、感謝の心を祖父に伝えたいと思う。